

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>



附属産学・
地域連携センター

当センターに関する総合的な情報については、こちらのホームページをご参照ください。

<http://web.sapmed.ac.jp/kikaku/kifukin/kifukin.html>



寄付金部門

寄付金に関する受け入れ等の手続きをホームページで公開しております。

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/seeds/indexseeds.html>



研究SEEDS集

学内外の研究者・研究機関との共同・受託研究推進を図るため、札幌医科大学の研究シーズをホームページで公開しております。

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/internal/sangaku.html>



産学地域連携部門

学内限定で、研究費獲得情報に関するホームページを開設し、学内研究者に向けて最新情報をお届けしております。

<http://web.sapmed.ac.jp/chizai/index.html>



知的財産管理室

大学における研究成果の特許権利化支援・管理を行っております。知財制度に関するQ&Aをホームページで公開しております。

<http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html>



医学研究者・地域医療
従事者支援型知財教育

文部科学省採択現代GPの取組をご紹介します。平成20年度より知財教育e-Learningを開始いたしました。

北海道公立大学法人 札幌医科大学
附属産学・地域連携センター

<http://web.sapmed.ac.jp/ircc/index.html>



札幌医科大学附属産学・地域連携センター

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目291 代表TEL (011) 611-2111 FAX (011) 611-2185
総合案内(内線:2168)

産学・地域連携部門(内線:2175 renkei@sapmed.ac.jp) 知的財産管理室(内線:2108 chizai@sapmed.ac.jp)
寄付金部門(内線:2228 kihukin@sapmed.ac.jp) 橋渡し研究支援(内線:2173 chizai@sapmed.ac.jp)

産学・地域連携センター組織図

センター所長 三高俊広

参事 真鍋雅信
副所長・弁理士 石笠正穂
副所長 関戸博行

文部科学省 産学官連携コーディネーター

産学・地域連携部門

産学連携グループ

科学研究費/国費公募/民間財団

学内教職員向け、研究費獲得のための公募情報をセンター通信やホームページでいち早くお知らせしております。また、申請書作成レクチャーや公募要領説明会の実施や、日々の研究費の経理事務を通じて研究者を支援しております。

寄附講座

産学連携の推進や奨学を目的とする企業からの寄附金を基に、札幌医科大学に講座を開設することができます。センターでは寄附講座の受け入れや経理事務を行っております。現在設置している寄附講座は、株式会社アインファーマシーズによる「緩和医療学講座」と、日東電工株式会社による「分子標的探索講座」がございます。

共同研究/受託研究

道内外のネットワークを持つ産学官連携コーディネーターが中心となり、本学の研究シーズを国内外の研究者・研究機関に紹介し、技術相談などの企画を行い、共同研究・受託研究の推進を図っております。また、共同研究・受託研究の受け入れから契約書の締結、経理事務などを一括して支援します。学内の研究シーズは、ホームページで公開しておりますのでご参照ください。

大学間連携

他大学と連携し、教育研究・産学連携の推進を支援いたします。これまでに、小樽商科大学、北海道医療大学、室蘭工業大学、はこだて未来大学と包括協定を締結しております。

寄附金グループ

寄附金

本学への寄附金は、本学の医学教育・学術研究の発展、充実に役立てております。また、学術振興事業を推進するため研究者等教育研究助成・海外派遣受入助成・国際交流・公開講座開催等に係る助成に役立てております。

知的財産管理室

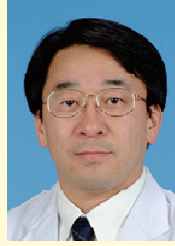
札幌医科大学の研究成果を特許として適切に権利化し、管理しております。特許取得に向けた研究戦略や技術移転についての相談に随時対応しています。また、他大学・他機関との研究試料の提供に必要なMTA契約の締結支援もおこなっております。大学の知財の取り扱い等については、Q&Aとしてホームページにまとめておりますのでご参照ください。

知財教育（現代GP）

平成17年度より文部科学省に採択され、大学院生をはじめとする医学研究者や地域医療従事者を対象とした知財教育を実施しております。受講者の多様なニーズ・意欲に対応したコース設定で、基礎知識から技術移転の実務までの内容となっております。また、地域医療従事者向け知財教育のe-Learning配信しております。詳しくはホームページをご参照ください。

橋渡し研究支援

札幌医科大学・北海道大学大学院医学研究科・旭川医科大学が連携して取り組んでいる「オール北海道先端医学・医療拠点形成」を支援しております。



札幌医科大学
附属産学・地域連携
センター所長
三高俊広

本学は、平成19年4月に公立大学法人となりましたが、附属産学・地域連携センターは、企業等のニーズに対応する大学側の窓口として、また大学が保有する研究シーズ等の企業や社会への発信源として、さらには、学内の研究を推進し支援する窓口として、シーズの発掘、発明・特許などの知的財産支援、リエゾン活動など、大学の社会貢献を目指した諸活動の窓口として中心的な役割を担っています。

産学・学問の共同研究や寄附講座・研究部門の設置、大学間の教育・研究交流、地域と連携したフィールドワークの実践などを積極的に推進し、研究に関するすべての情報の集積と学内外に発信を行うハブ的役割を果たす所存です。加えて、本学の活発な教育・研究・臨床活動からは、社会に還元することのできる価値の高い知的財産が生み出されています。それらの成果を、人々の健康の増進と医療の向上につなげてゆくためには、知的財産の有効活用と産学連携による実用化に努める必要があります。本センターでは、弁理士、産学官連携コーディネーター、NEDOフェロー、橋渡し研究（TR）支援専門員、知的財産管理アドバイザー（客員教授）など専門スタッフを擁しておりますので、学内の知財の有効活用と産学官連携の支援を行っていく所存です。

最新採択事業

文部科学省「知的クラスター創成事業(第II期)」の概要

○ 事業の概要

1 目的

大学等の研究機関の能力が最大限に発揮され、その研究開発の成果が地域の産業と有機的に結びつき、競争的環境の下に技術革新と新産業の創造を誘発する地域イノベーションシステムの構築を目指す。

2 事業期間：5年間(3年目→中間評価、事業終了後→事後評価)

3 採択数：6地域(札幌、仙台、長野、浜松、関西広域、福岡・北九州・飯塚)

○ 北海道の提案概要

1 課題名：さっぽろバイオクラスター構想“Bio-S”

(The Biocluster for Success from Science at Sapporo)

2 事業提案者：北海道及び札幌市(共同提案)

3 中核機関：北海道科学技術総合振興センター(ノーステック財団)

4 核となる大学：北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学

5 事業の概要

北海道の優良な農・水・畜産素材が含む健康に有用な成分を検証・評価し、機能性成分や栄養成分製品等を作り出すシステムを構築し、その産業基盤を確立させることを目指す。

・科学的・医学的根拠を得るための機能性評価システムの構築

・評価システムを活用した食素材の高機能化

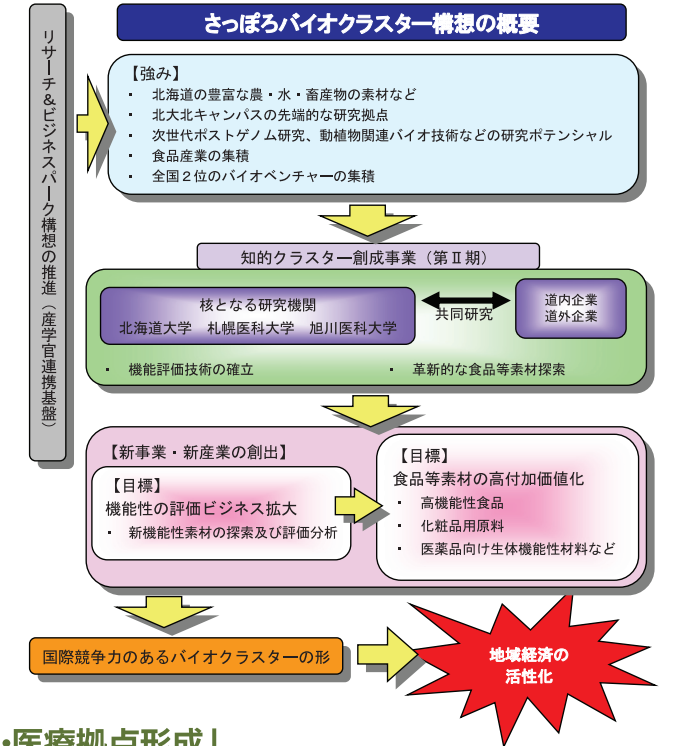
・評価システム及び高機能化食材の事業化

・北海道から世界に通用する健康科学産業の創出

○ 5年後（H23）の定量的目標

・バイオ産業の売上高：500億円以上(H18：約286億円)

・バイオ産業の研究開発投資額：50億円以上(H18：約29億円)



橋渡し研究支援推進プログラム「オール北海道先端医学・医療拠点形成」

【概要】

・本受託業務では、札幌医科大学を責任機関とし、橋渡し研究の支援を目的として、札幌医科大学、北海道大学、旭川医科大学(以下、3大学)により「北海道臨床開発機構」を設立(事務局は北海道大学敷地内)。

・本機構では、3大学を中心として開発されたシーズの中から有望なシーズを発掘し、安全性評価や試験物製造を援助し、適切な臨床計画立案を指導し、治験に結びつける。また、全国にシーズを公募し、有望なシーズは3大学との共同研究として採用し、実用化を目指す。

【事業期間】

・附属病院のベッド数が合わせて2500床あまりとなるほか、全道620余りの病院全てとの連携を図ることができるという、日本でも最大級のTR研究基盤

・道外への人口移動が少ないことから、3大学が協力することにより、臨床研究の長期フォローアップが可能

・3大学の研究実績を生かした多様な研究シーズの存在

【事業期間】

平成19年度～23年度(5年間)

【目標】

・5年間で2件の薬事法に基づく治験が実施できることを目標とする。

【活動予定】

・広報活動や講演会の開催等を通じ、橋渡し研究に関する普及・啓発活動を積極的に行う。

・北海道庁や(財)北海道科学技術総合振興センター等の研究開発支援機関、北海道経済連合会等との連携を図ることにより、本受託業務について北海道全体による円滑な推進を3大学共同で目指す。

【札幌医科大学の研究シーズ】

- ① 脳梗塞後の骨髄間葉系幹細胞の静脈内投与による再生医療治療効果向上のための技術開発
- ② エピジェネティクスを標的とした癌の診断及び治療法に関する臨床研究
- ③ 新規高性能抗体を用いた癌早期低侵襲診断法の橋渡し研究
- ④ ヒト癌ワクチン実用化の臨床研究
- ⑤ 血漿プロテオミクスによるGVHD診断標的の同定と臨床応用

【将来構想】

・知的財産のライセンス料や治験管理手数料などにより、自己資金の確保を図り、機構運営の独立を図っていく。

・国際的なTR研究支援活動、治験受入拠点をめざす。

■組織機構図

